

## 平成28年度の課題

○効率的な防風林の  
施業の推進

防風保安林の機能を維持し帯幅や林況に見合った効率的な伐採や路網の配置、更新方法等の確立や普及が必要。



## ○堅固な森林作業道の作設



請負事業者への森林作業道作設技術向上のための指導を行うとともに、技術の向上と地域特有の地質等に対応した作設方法の確立と普及を図る。

主伐後、手直し程度で2t車クラスが苗木運搬時等に走行可能で繰り返し使える路網配置により低コスト造林事業が実現する。

## 実施事項

## ○現地検討会の開催

防風保安林主伐の実例を紹介し、保安林機能を維持しつつ、どのように効率的な施業を行うかを、国有林の施業実施箇所において開催しました。

○説明会・  
現地検討会の実施

当署と請負契約を締結した事業者へ森林作業道作設技術の向上を図る為、契約後に説明会を開催し指導を行いました。

また、繰り返し使える森林作業道の現地検討会を開催し、雨の中、多数の参加者が集まりました。

## 成果

国有林防風保安林の主伐の実例紹介や林帯幅の狭い防風林の取扱いに係る現地検討会を開催したところ、H29年度市町村森林整備計画を樹立する上で、参考になったとの複数の意見等から、技術の普及が図られました。

森林作業道の現地検討会では、事業終了から一年越しの現場において雨中開催したが、融雪や雨水による被害も無く、堅固に作られた森林作業道を使って今後の作業にも繰り返し使える道として理解が得られました。



## 今後の課題

防風林は根室・十勝の市町村でも同様の状況にあり、釧路・根室・十勝の防風林をあわせると道内の70% (16,935ha) を占めており、今後も地域共通の課題として現地検討会の開催するなど地域で議論を深める必要があると考えています。

事業者への森林作業道の作設技術の向上については、まだ十分理解が得られていない請負者もあり、監督員等、普段の作業から適切な指導や助言が必要と考えています。

また、主伐期を迎えた人工林は、伐採後、植栽を控えており、造林作業にも使える道としてより効率的で強固な森林作業道の作設が求められているものと考えます。

H29年度には、このことをテーマに現地検討会の開催を予定しています。